

(令和2年6月試験研究業務月報)

試験研究課題：魚介類の種苗生産に関する研究

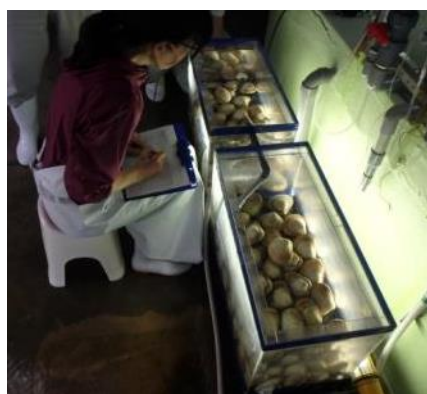
研 究

「丹後とり貝」の種苗生産

京都府を代表する水産物のひとつで、京のブランド産品にも認証されている「丹後とり貝」は、卵から出荷サイズになるまで一貫して人の手で育てられる完全養殖で生産されます。当センターは、採卵からおよそ0.6mmサイズになるまでの最初期段階のトリガイ種苗の大量生産技術を全国で唯一保有しており、「丹後とり貝」を世に出す上で非常に重要な役割を担っています。

今年も5月8日から室内水槽室で種苗生産を開始しました。飼育初期には水槽内にバクテリアが発生して飼育不調になった例も一部で確認されましたが、最終的には6月16日に1mmサイズの稚貝約250万個を当センターの海面中間育成施設に沖出し※することができました。今後、稚貝は委託先の京都府栽培漁業センターによって1cmサイズまで育てられた後、7月7日から順次、トリガイ育成業者に配付され、約1年間で8~9cmの大きさに育成されて出荷されます。

※ 沖出し：室内水槽で育てた稚貝を屋外の養殖コンテナに移す工程



親貝を水槽に収容し、受精卵を回収



海面中間育成施設と1cmサイズ稚貝